チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名（注１）	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-（事務局用）	北九州空港の利用促進	福岡県北九州市
チームがつけたアイデア名（公開）（注 2）	泊まれる空港と DMV で新たな北九州空港へと飛び立とう！		

（注１）地域課題名は、COG2022　サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注　2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

１．応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	江口と山口、ときどき小林	
チーム属性（公開）	１．市民、２．市民／学生混成、３．学生	3
メンバー数（公開）	２名	
代表者（公開）	江口千里	
メンバー（公開）	山口紗季	

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

１．　応募の際は、ファイル名を COG2022_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

２．　アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

３．　公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示ー非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja、および、https://creativecommons.org/licenses/by-nc /4.0/legalcode.ja をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）

４．　上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）

５．　この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

６．　「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。

７．　「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2．の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧下さい。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	（○）

2．アイデアの説明（公開）　　(1) アイデアの内容（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたくなる**、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**２ページ以内**でご記入ください。

＜応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください＞

・空港の知名度が低く、近隣空港に比べて利用者が少ないこと

・様々な工夫がされていても根本的な解決がなされていない**アクセス**について

＜この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます＞ ＜アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。＞

＜よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です＞

私たちが提案するのは**２つ**ある。今回のお題は「北九州空港の利用促進」だ。

北九州空港の利用客を増やすために、**知名度向上**と**アクセス面**に焦点をあてて考えた。

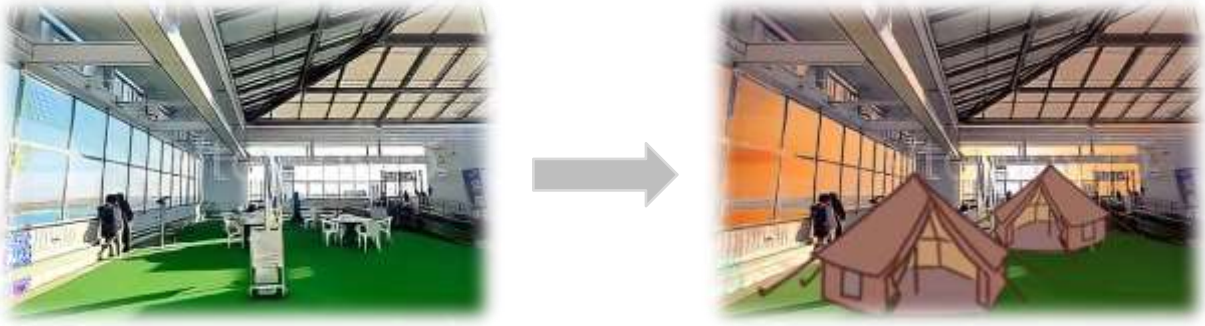
①泊まれる空港

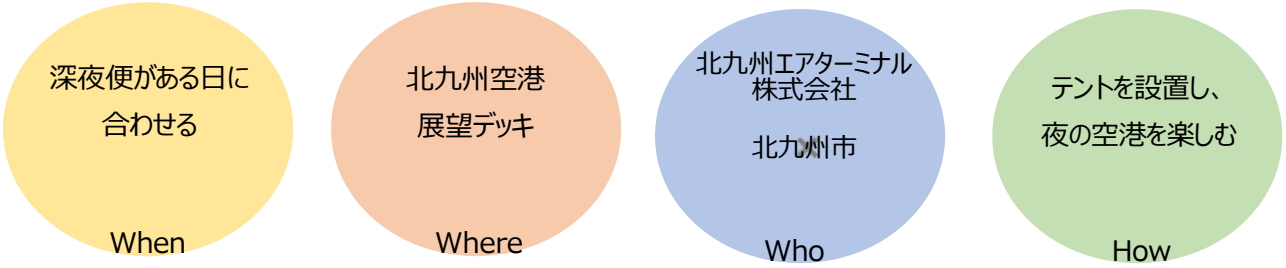
現在の北九州空港の課題の中で、福岡空港の補完空港になれていないことが挙げられる。この課題を解決するためにも、飛行機に乗るということ以外にも魅力を上げることが必要だと考える。

そこで、私たちは、「**泊まれる空港**」を提案する。

この泊まれる空港は、24 時間空港としての魅力を高めるものであり、且つ日本全国探してもまだない泊まれる空港を実践することで、北九州空港の知名度が上がると考える。

現在　　泊まれる空港





〈When〉

現在は深夜便がコロナウイルスの影響を受け、深夜は貨物便が運航していないため、開催日が限られているが、将来的に便数が回復した後は定期的に開催できると考えている。

2．アイデアの説明（公開）　(1) アイデアの内容（公開）

2024 年 4 月からヤマトホールディングス社と日本航空者が持続的、且つ強靭な物流ネットワークの構築に向け、首都圏から日本各地への長距離輸送に貨物専用機の運行を開始することになった。九州は北九州空港が選ばれ、 24 時間空港としての役割が果たせるようになると考えている。そのため、泊まれる空港の需要も高まると予想できる。

〈Where〉

北九州空港の展望デッキ。現在の展望デッキは、足湯や観光双眼鏡がありゆったりくつろげるスペースがある。しかし、実際に行ってみると使われていないデットスペースの方が多いと感じるスペース。

〈Who〉

北九州空港のエアターミナルを運営する北九州エアターミナル株式会社が運営を行う。

〈How〉

展望デッキにテントを設置し、夜の空港を楽しんでもらう。

②DMV による新たなアクセス手段斬新で最新なDMV を用いて北九州空港～小倉駅間の効率化を図る。

DMV とは…

デュアル・モード・ビークルの略。

電車の軌道と自動車が走るための道路の双方を

走行できるよう鉄道車両として改造されたバス車両。

〈DMV の強み〉

② 線路の上を通るのでバスよりも定時性に優れている

②北九州空港付近はさほど複雑な道もなはなく信号も多くない

→バスよりも早く正確な時間に到着できる可能性が高い

〈北九州空港で応用すると・・・〉

空港から朽網駅まではバスとして

朽網駅から小倉駅までは電車としてお客様を運ぶ！

現在の高速バスよりも 10 分早く着く

将来的にはDMV が滑走路⇔小倉駅

荷物の受け取り時間など短縮でき飛行機に対するハードルが下がる

〈DMV を北九州で取り入れるメリット〉

・高速バスよりも早い移動時間

・駅に到着するため、新幹線や電車の乗り継ぎに便利

・日本での前例がまだ 1 つしかないため、DMV が導入されただけでも話題性に優れており、DMV に乗りたいという目的の人も増加する

⬇

空港に訪れる人が増える

2．アイデアの説明（公開）　　(1) アイデアの内容（公開）

アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

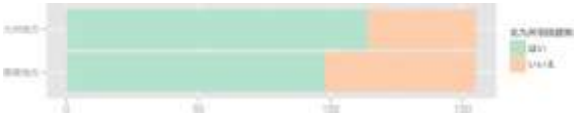
＜この「アイデアを提案する理由（なぜ）」を書いていきます＞
＜先の（１）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます

北九州空港の強み・弱みを北九州エアターミナル株式会社の方にインタビューした。

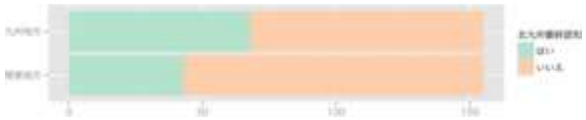
強み	弱み
・24 時間運行可能な海上空港 ・物流拠点としての役割 ・初めて来た人も使いやすい	・鉄道系アクセスがない ・知名度不足 ・北九州市民も福岡空港を利用している ・路線が少ない(早朝.深夜便が少ない)

①泊まれる空港

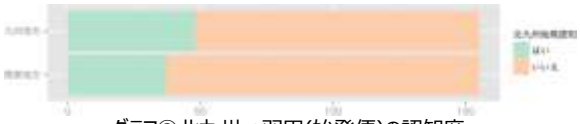
北九州空港の課題として、知名度の低さが挙げられる。福岡空港の補完空港としても期待されているが、現在は福岡空港に負担がかかりすぎている。公益財団法人アジア成長研究所出典のグラフ３つから見ても、24 時間空港としての魅力を周知できていないことが分かる。特にグラフ②③の北九州空港の特徴である深夜便が周知できていないことが課題としてある。そこで、まだ日本で取り組まれていない泊まれる空港を実践することで注目を集めることができると考える。また、この泊まれる空港は 24 時間空港である北九州空港だからこそ取り組むべきものだと考える。



グラフ①北九州羽田路線の認知度



グラフ②北九州→羽田(最終便)の認知度

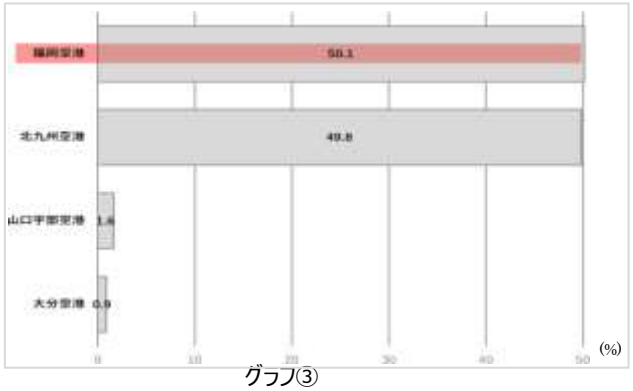


グラフ③北九州→羽田(始発便)の認知度

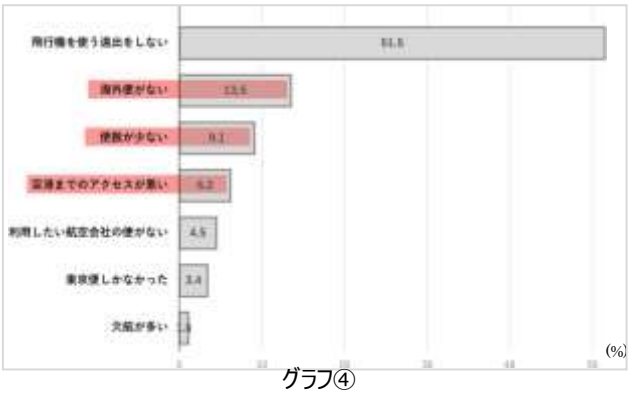
〈グラフ①～③出典〉
公益財団法人 アジア成長研究所
「北部九州地域における空港の 旅客利用実態に関する研究」
平成 27（2015）年 3 月

2．アイデアの説明（公開）　(2) アイデアの理由（公開）

②DMV による新たなアクセス手段



グラフ③
北九州市民の周辺空港の利用状況



グラフ④
北九州空港を利用しない理由

〈グラフ③、グラフ④出典〉北九州空港に関する市民意識調査結果（速報）

まず、強みと弱みから北九州空港は「24 時間空港という強みをもちながら早朝、深夜便が少なく上手く活かしきれていない」という課題があることがわかる。また、現状として北九州市民の半数が福岡空港を利用している。理由としては、海外便がない、便数が少ない、アクセスが悪いということが原因であることがグラフ④から読み取ることができる。便数が少ないという声も多いが、便数を増やすには利用者を増やさなければならない。これらのことから、北九州空港の利用者数を増やすには、「アクセスの課題を解決する」ことが根本的に解決することだと考える。

実際に、北九州エアターミナル株式会社の方にアクセス面で課題に感じることをインタビューした。北九州空港は鉄道アクセスがないため、北九州空港に来ること自体のハードルが高くなっていると考えていると教えていただいた。朽網駅から鉄道を通すことも考えたが、レールを敷く予算の確保が難しいため現実的な方法ではないということであった。このことからも DMV は新しいレールが必要ないため予算がかからず、最新のモビリティで注目も集められるため、適切な課題解決策だと考える。また、グラフ②から飛行機に乗らないという意見が多いことが分かる。ライフネット生命保険が出典しているアンケート結果によると、「国内中距離旅行で新幹線と飛行機どちらを選ぶか」という問いに対して、新幹線と回答した人の中の約 25%が「飛行機を使う際の手間・面倒」と回答した。中でも面倒なこととして、「空港までの移動の手間」と回答している人が多い。このことからも DMV を使えば移動時間が短縮でき、将来的には DMV が滑走路まで行き手荷物などの手続きも一気に行えるシステムも導入する可能性がある DMV を用いることでアクセスの課題を解決することができると考えている。

また、泊まれる空港も DMV も乗り物好きな人向けにとって魅力的な取り組みであるため、①泊まれる空港②DMV による新たなアクセス手段のどちらも取り組むことで北九州空港の利用促進に繋がると考える。

2．アイデアの説明（公開）　　**(3) アイデア実現までの流れ（公開）**

アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1．実現する主体

2．実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

3．実現にいたる時間軸を含むプロセス

1．実現する主体

①泊まれる空港	北九州エアターミナル株式会社、北九州市
②DMVによる新たなアクセス手段	西鉄バス、JR九州、北九州空港、北九州市

①は北九州エアターミナル株式会社が主体となり、環境整備や広報活動を行う。

②は現在北九州エアポートバスを運営する西鉄バスと、JR 九州が連携して運行する。

2．実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)

①泊まれる空港

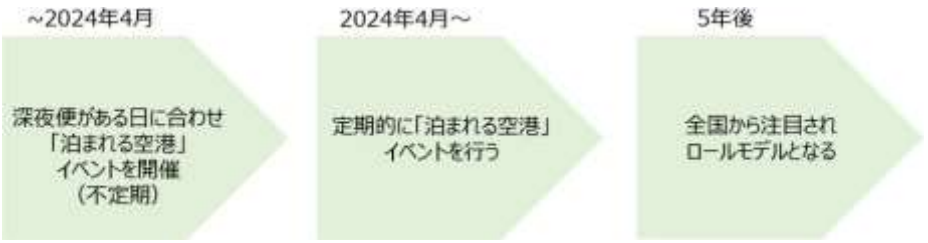
北九州ターミナル株式会社運営し、テントを調達する。

②DMV による新たなアクセス手段

バスの部分は既存の道路を利用するため、鉄道アクセスを新たにつくるより低予算で実現可能である。

3．実現にいたる時間軸を含むプロセス

①泊まれる空港



②DMV による新たなアクセス手段